

廓山上人

元亀 3 年(1572)～寛永 2 年(1625)、諱は一實^{いちじつ}(実)、号は定蓮社正誉^{じょうれんじゃしょうよ}。学僧、徳川家康に重用された高僧。廓山上人の出自については、諸説あるが、「菱軍遺芳」^{りょうぐんいほう}には高坂昌信の末子として僧一實が、「甲斐國志」には高坂弾正の三男として勝五郎・僧一實が、「佐渡古実略記」・「佐渡風土記」には弾正の男子として廓上和尚が、「新纂浄土宗大辞典」には高坂昌信の次男として廓山が記されている。これらの諸史料を総合すると、廓山(一實)を高坂弾正の子とする説が有力である。

芝増上寺 11 世及び 12 世に師事して浄土教学を学んだ。慶長 13 年(1608)、江戸城内において、日蓮宗の日経らと宗論を行って勝利した(慶長宗論^{けいちょうしゅうろん})。当時、廓山は、家康が建立した駿河国駿府の英長寺(現在の来迎院)の開山として招かれていた。また、この頃、家康は生母・於大^{おだい}の方(傳通院殿)の葬儀を機に、江戸小石川の寿経寺を菩提寺(傳通院)として再興し、廓山を中興開山として招いた。元和 8 年(1622)、増上寺 13 世に就任した。「浄土宗諸法度」(全 35 条)の作成に携わり、「供奉記^{ぐぶき}」を著すとともに、「増上寺十三世正誉廓山自筆涅槃図置文」を制作した。甲陽軍鑑を佐渡で完成させた高坂弾正の甥、春日惣次郎と同時代の人物である。(川端紅葉著 2026・6・14)



「英長寺・来迎院(静岡市葵区横内町 102)」©2026・5 川端紅葉
駿府城東御門から北街道沿いに北東へ約 800m



「駿府城 東御門」 ©2026・5 川端紅葉



「駿府城 二之丸堀(中堀)」 ©2026・5 川端紅葉



「増上寺(東京都港区芝公園 4-7-35)」©2026・6 川端紅葉
6人の徳川将軍が眠っている、背後に東京タワー



「増上寺大門」©2026・6 川端紅葉
浜松町駅付近の大門から真西の本堂まで約 280m



「傳通院(東京都文京区小石川 3-14-6)」 ©2026・6 川端紅葉
東京ドームや後樂園から徒歩圏内にある